

事業の名称等
令和2年度もりの学舎ようちえん



ねらい

四季を通じて自然を体感し、親しんでもらう。
自然に親しむことで、自然の大切さについて考える動機づけ（きっかけ）とする。

学習者の状況

自然体験をほとんどしたことがない。
保護者が子どもに自然体験をさせたくても、やり方が分からない方が多い。

成果指標

四季を通じて自然を体感し、親しむことができたか。
自然に親しむことで、自然の大切さについて考える動機づけ（きっかけ）ができたか。

取組の内容

1 森の危険な生きものを紹介するなど、自然に親しんでもらうところからスタート（7月）

2 生きものにふれる、森にある物を使った工作、森にあるドングリなどをつかった料理、たき火などにより、四季を通じた自然体験を行う（10月～1月）

3 まとめ（3月）

工夫

「森で自然にふれあう」
…積み木（新型コロナウイルス感染症により第1回（5月）のプログラムの代替として送付）の原木を観察。森にすむ危険な生きものの対処法の練習。
本物体験 **共感・納得**

「広場で生きものを探そう」
…広場の草地に隠れている生きものを探し、捕まえた後、生きものじっくり観察しながらスケッチ。
本物体験

「森のめぐみをたべる」
…森のめぐみであるどんぐりを貯食している生きものの視点で、冬の森を散歩。また、どんぐりを料理し食べることで、五感を使って森のめぐみを実感。
本物体験

「春をみつける」
…春を感じる自然物を見つけながら散歩することで、もりの学舎周辺の季節の移り変わりを実感。プログラム終了後も自然への興味が持続するような呼びかけ。
本物体験 **見守り**

学習者の反応

この積み木、家に生えている木と同じかも！



虫をたくさんみつけたよ！
バツの絵をかいたよ！



リスさんはこんなに美味しいものを食べているんだね！
いいにおい～！



おたまじゃくしがいたよ！
花のつぼみがあるよ！



学習の効果&主に育まれる力

森に入るときに注意することを学ぶことで、安全な過ごし方を知ってもらえた。
自ら捕まえた生きものをスケッチすることで、生きものへの興味を高めることができた。



森のめぐみのどんぐりの役割を、五感を使って体験することで、自然を身近に感じることができた。



もりの学舎周辺での四季を通じた体験から、自然に親しみを持ってもらい、これからは自然と触れ合いたいと思ってもらえることができた。



令和2年度もりの学舎ようちえん

- 平成28年度から4歳以上の未就学児向けにもりの学舎で実施している事業。
- 全5回のプログラムは、もりの学舎の環境を活かし、大人と子供と一緒に自然や生きものとふれあうことができる内容である。（全6回の計画であるが、第1回は新型コロナウイルス感染症の影響により中止）



学習者の変容

【保護者へのアンケート結果より】
[当日アンケート結果より]
・虫に拒否姿勢だったのが、自ら近づいて観察できた。
・普段は自然と触れ合う事や山の中を歩く事をしないので、とても良い経験ができた。
[半年後アンケート結果より]
・生き物を見つけた時に、より細かな点まで観察するようになった。
・参加前は虫に触れなかったが、参加後は触れる虫が増え、飼ってみたい、図鑑で調べて絵を書いたり虫に関する時間が増えた。
（子どもの行動や発言についてわかるほどの変化を約88%の保護者が感じていた。）

成果と課題

【成果】
・四季を通じ、工夫を凝らした自然体験の場を提供することで、自然に親しんでもらうことができた。
・本事業参加後、子どもの自然体験の回数の増加や継続が見られた。
・自然に関する子どもの行動や発言に変化が表れ、また、保護者自身も子どもと一緒に自然の大切さについて考えるきっかけとなったと推測できる。
【課題】
・今後も、子どもだけではなく、保護者自身にも自然の大切さを考えてもらえるよう促す必要がある。

事業の名称等

令和3年度プラザ環境学習講座



取組の内容

1 導入
いま地球上でどんな問題が起きているのか、また、何が原因なのかについて伝える。

2 展開
簡単な実験や工作などを行い、体験を通して環境問題についてより分かりやすく伝える。

3 ふりかえり
学んだことをふりかえり、普段の生活の中で自分にできることを考え、発表し、共有する。

ねらい

自然、いきもの、ごみ、水、地球温暖化などの環境問題について、体験型の学習講座を通して理解を深め、環境を守るために自分たちに何ができるかを考え、自身の行動につなげてもらう。

学習したことを家族や友達に話すことで、日常生活の中で行う地球にやさしい行動「エコアクション」を広めるきっかけとする。

工夫

現実には起きている問題をイメージしやすくするため、写真や映像を使って説明。

身近で考えられる問いかけ（例「朝起きてから今の時間までに何に水を使ったか？」など）やクイズを交えながら、環境問題は身近な問題であることを説明。

♡ 見守り ♡ ゆさぶり

環境問題への関心をより高めるため、普段体験できないような内容の実験や工作など、印象に残る体験を提供。

見たり、聴いたり、触ったり、感じたりして体感することで、驚きや発見を生み、環境問題のしくみ（水がなぜよごれるのか）等をより分かりやすく、自分事として捉えられるようサポート。

♡ 驚き・感動 ♡ 本物体験

身近に多くのエコアクションがあることに気づき、行動する意欲につなげるため、講座で学び、体験したことをふり返り、「わたしたちにできることは何か？」と問いかけて発言を促し、皆で共有。

家庭や地域へ環境を守る行動「エコアクション」が広まるよう、最後に、「帰ったら、家族や友達に今日学んだことを話してね」と呼びかけ。

♡ 共感・納得 ♡ 成果実感

学習者の状況

環境問題について聞いたことはあるけど、詳しくは知らない。

知識はあるが、「エコアクション」にまで結びついていない。

そもそも環境問題について聞いたこともない。

学習者の反応

「世界中でゴミが増え続けているなんて大変」

「汚れた空気を吸わなければいけない国があるなんて、とつてもかわいそう」

「エアコンをつかうと、地球が暖くなるなんて、しなかった」

「牛乳パックをリサイクルして、ソーラーカーを作れて楽しかった。ソーラーパネルについてもっと知りたい」

「ゲームをしながらSDG sを勉強できたので、わかりやすかった。SDG sのために、自分にどんなことができるか考えてみる」

「なるべく節電する」

「ご飯をできるだけ残さないようにする」

「家族に、汚れた水をきれいにするのは、すごく大変なことを教える。」

「あいち環境学習プラザを友達に教えたい」

学習者の変容

【児童へのアンケート結果より】
・ごみを海に捨てて魚が苦しんでいる。森にある木を伐りすぎて住処をなくす動物がいることがわかりました。コロナの中でも校外学習ができてうれしかったです。
・環境や温暖化のことがいろいろわかった。説明がとても分かりやすかった。生物多様性についてもっと知りたくなった。

【依頼者（教師等）へのアンケート結果より】
・児童が環境問題についてしっかりと学び、具体的な行動目標をエコアクション宣言として発表することができた。
・見学後、水道の水を出しっぱなしにしないように気をつける姿が見られるようになった

成果指標

環境問題について理解を深め、環境を守るために自分たちに何ができるかを考え、自身の行動につなげることができたか。

学習したことを家族や友達に話し、日常生活の中で行う地球にやさしい行動「エコアクション」を広めるきっかけとなったか。

学習の効果&主に育まれる力

環境問題が身近な問題であること、世界中で様々な環境問題が起きており、多くの人や生きものが困っていることを実感しながら、

自分たちの生活との関係に思いを巡らすことができた。



体感することで、好奇心を高め、さらに、こうしたらどうだろう、もっと知りたいという

探究心が高まった。



自分にできることは何かを考えて気づくことができた。

他の人の意見を聞くことで、自分では気づけなかった、環境を守るために

できることがたくさんあることに気づくことができた。

学んだことを話すことで家庭や学校、地域でのエコアクションを広めるきっかけとなった。



成果と課題

【成果】
・環境問題は身近な問題であることを理解してもらい、自分たちにできることを考え、行動に移す意欲を育むことができた。
・学習したことを家族や友達に話し、家庭や地域にエコアクションを広めるきっかけづくりができた。
・依頼者及び見学者に対し見学終了後1ヶ月を自処に実施するアンケートにより、講座で学んだことが行動に移せていることが把握できた。

【課題】
・自然、いきもの、ごみ、水、地球温暖化など、環境問題は複数の分野にまたがるため、参加者に一分野だけでなく各分野への理解を深めてもらう必要がある。

令和3年度プラザ環境学習講座

・あいち環境学習プラザにおいて、主に小学生向けに、地球温暖化、生物多様性、水やごみなどの環境問題について、実験や工作を交えた体験型の学習講座を実施。



事業の名称及び概要

令和3年度高校生環境学習推進事業

あいちの未来クリエイティブ部



取組の内容

1 キックオフミーティング(オンライン)で、活動のオリエンテーションを行い、今後に関与する講義を受講後、活動内容を検討(6月)

2 専門家の支援を受けてフィールド調査やデータ分析等の調査・研究(7月~11月)及び調査研究発表会(11月)を実施

3 調査・研究等の成果を基に、誰に何を伝えたいか話し合い意見をまとめた環境学習教材の作成及び教材体験の実施(12月~3月)

令和3年度高校生環境学習推進事業

・高校生が、専門家の支援を受けて地域の環境問題に関する調査・研究を行い、その結果を基に環境学習教材を作成するとともに、その教材を活用し、普及啓発する。



ねらい

- ・高校生の環境問題に対する関心や環境意識を高め、課題発見能力や課題解決能力を育む。
- ・高校生が仲間とともに自分達で考えながら取り組むことで、主体性、協調性を育む。

工夫

- アドバイザーや講師から、伝えたいことをわかりやすく他者に伝えるコツや話し合いのコツについて講義を受け、活動開始の準備をサポート。
- 質疑応答の時間を設けて発言を求めることで、オンラインでも積極的な参加を促進。 **共感・納得**
- ファシリテーターがサポートしつつ、高校生中心で今後の活動内容を検討。 **見守り**
- 高校生が主体的に調査・研究を行えるよう、テーマに沿った専門家が必要に応じて助言。 **共感・納得**
本物体験
驚き・感動
- 調査・研究を振り返り、活動内容の理解をより深めるため、成果を披露する発表会を実施。
- 調査研究発表会に過去参加校も出席し、研究発表や交流の機会を提供。 **成果実感**
- 調査・研究等で得た知識を基に、伝える対象・内容を明確に意識して教材の作成を進められるよう、ファシリテーターが支援。 **見守り**
- 作成した教材を体験した周囲の人から、感想や改善点などフィードバック。 **成果実感**

学習者の状況

- ・環境への興味や活動レベルは様々である。
- ・どのように調査に取り組みばいいかわからない。
- ・顧問の指導に従い、活動に対して受け身の態度の生徒が多い。

学習者の反応

最初は何をするか不安だったが、講義を受けて今後活動していく中でポイントがわかった！

講義の内容を消化して、質疑応答の時間に質問することができた！

どのような内容でこれから調査・研究を進めて行こうかな？



実際に捕獲した魚を前に見分け方などを専門家に教えてもらった！
【愛知県立津島高校】



エシカル消費・フェアトレードについて、もっと多くの人に知ってほしい！
【愛知県立南陽高校】



楽しく海ごみの現状を知り、どんな行動がごみを減らすことに繋がるのか考えてほしい！体験した人が楽しく学んでくれて、達成感！
【愛知県立内海高校】



学習者の変容

- 【高校生へのアンケート結果より】
- ・今回の活動を通して得た知識を使って次はSDGsの問題に挑戦してみたい。
- ・改めて自分達が設定したテーマへの意識がより高まった。
- ・本音でぶつかりあい、自己を高め合うことができた。
- 【顧問へのアンケート結果より】
- ・どちらかというと消極的だった生徒が、最後には楽しく活動を終えることができた。
- ・人の役に立ちたい、環境をよくしたいとより考えるようになり情報発信も大切であると再認識した。

成果指標

- ・高校生の環境問題に対する関心や環境意識を高め、課題発見能力や課題解決能力を育むことができたか。
- ・高校生が仲間とともに自分達で考えながら取り組むことで、主体性、協調性を育むことができたか。

学習の効果&主に育まれる力

- ・講義の内容から、今後の自分たちの活動の進め方を具体的にイメージしやすくなった。
- ・自分の考えや疑問を発言する機会が積極性を育んだ。
- ・調査・研究の内容や方向性を自分たちで決定することで、興味関心を高めた。



- ・体験から自ら感じ、学ぶことができた。
- ・専門家からアドバイスをもらえるという貴重な体験を通して、自信がいった。
- ・発表に向けて自分のこれまでの活動を振り返ったり、発表を聞いた人から感想や質問等をもらったりすることで、新たな気づきや課題を見つけることができた。



- ・学んだことをどのように伝えるのか、高校生が自ら考え、仲間との話し合いを通して、成果を教材という形にできた。
- ・教材を活用し、学びを周囲に広げることができた。



成果と課題

- 【成果】
- ・活動の中で、課題を見出し、それを解決するための調査・研究を検討して実践することにより、課題発見能力や解決能力が育まれた。
- ・自分の考えを積極的に述べ、仲間と協力しながら取り組むことができるようになり、主体性や協調性の向上につながった。
- 【課題】
- ・過去参加校との交流の機会を設ける等、活動を継続・発展させる工夫を実施しているが、不十分な状況のため、さらなる工夫が必要である。

事業の名称等 令和3年度 かがやけ☆あいちサスティナ研究所  	ねらい ○持続可能な社会の実現のために必要な知識やスキルを身につけるとともに、それらを活用する能力を育む。 ○参加した大学生、パートナー企業が、環境面における活動をより活発に実施するよう促す。	学習者の状況 ○これまでに習得してきた知識やスキルを社会でどのように活用していくか、まだ具体的なイメージがわいていない様子である。	成果指標 ○持続可能な社会の実現のために必要な知識やスキルを身につけるとともに、それらを活用する能力を育むことができたか。 ○参加した大学生、パートナー企業が、環境面における活動をより活発に実施するよう促すことができたか。
取組の内容 1 開所式で、学生、パートナー企業等との顔合わせ、活動や課題の説明等を実施（8月）	工夫 ○愛知県知事の激励により士気を高めるとともに、学生、パートナー企業、ファシリテーターとの顔合わせ、活動や課題の説明等を行い、研究所活動を円滑に開始できるような機会を提供。 	学習者の反応 最初は不安だったが、学生同士で交流を行うことで、モチベーションの上昇や関係構築につながった！  	学習の効果&主に育まれる力 ○全体のスケジュールを理解し、期間内にやるべきことを順序立てて具体的にイメージできた。 
2 環境問題やSDGs、課題解決に関する基礎講座を受講（8月）	○今後の環境課題研究を行うに際し必要な知識や理解を深めるため、SDGsや課題解決の考え方の参考となる講座を実施。 ○昨年度の修了生から経験談や心構えを聞くことで、全体の活動のイメージをサポート。  	環境やSDGsに関する知識が深まった！  	○これから解決策を検討していくために必要な知識やスキルを習得した。 ○さらに必要なことについては自ら学習するなど、主体性を育んだ。 
3 研究所活動として、企業訪問による現場調査や企業担当者とのディスカッション、チームミーティングを実施（8月～10月）	<課題研究> 企業訪問による現場調査や企業担当者とのディスカッションにファシリテーターを交えることで、学生のインプット及びアウトプットが大きくなるよう橋渡し。    <チームミーティング> 解決策を作り上げるためにチームミーティングを実施。適切なタイミングでファシリテーターが助言を行うことで、学生の考えをうまく引き出し、議論が円滑に進むよう支援。 <運営方法の変更> 研究所活動終了後も大学のゼミ・研究室とパートナー企業が継続して研究活動ができるとともに、コロナ禍における感染リスクを低減するため、従来の個人参加に加え、団体参加（大学のゼミ・研究室）を試験的に導入。	現場に行くと、企業が実際に行っている取組を体感できる！  チームでミーティングを行い、解決策に向けた議論を深めていった。 時間が足りない！ 	○実際に現地を調査し、企業担当者と議論することで、課題の意味を深く理解し、課題の解決がどのように持続可能な社会の実現につながるかに気づいた。 ○チームミーティングを重ねることで、解決策に向けた議論を深めると同時に、様々な視点で物事を考える力が育まれた。 

<p>4 成果発表本番に向け、中間発表会を開催（11月）</p>	<p>○成果発表会に向けたプレゼンテーション練習を実施し、出席者からのフィードバックを踏まえ、研究成果のブラッシュアップ等を促進。</p> <p>♡ 共感・納得 ♡ ゆさぶり</p>	<p>練習会は他チームからの意見やプレゼンテーションの方法など、成果発表会に向けてとても参考になる！</p> 	<p>○他者の意見により、新たな課題に気付くことができた。また、相手にわかりやすく伝える能力が育まれた。</p> 
<p>5 成果発表会・修了式で、研究所活動の成果である解決策を提案（12月）</p>	<p>○提案した解決策をパートナー企業が評価。</p> <p>♡ 成果実感</p> <p>○審査員による審査と合わせてオーディエンス賞を設け、来場者の参加性を高めることにより、来場者に伝わりやすいプレゼンテーションを行うよう学生に促進。</p>	<p>○チームみんなで考えたアイデアや発表の工夫がパートナー企業や来場者に伝わるといいな！</p> <p>○大勢の前での発表は緊張したが、今まで取り組んできた成果を練習したとおり発表できた！</p> 	<p>○企業からの評価や審査員からの講評を受け、これまでの活動を振り返ることで、課題解決に必要なスキルや他者への伝え方の改善点を見つけることができた。</p> 
<p>6 県内の大学等で出張成果発表を実施（1月～3月）</p>	<p>○学生自身の知識の習得や理解の増進、チーム内での研究だけにとどまらず、これまでの研究成果を発信。</p> <p>♡ 共感・納得 ♡ 成果実感</p>	<p>ともに行動する仲間を増やしたい！</p>  	<p>○研究成果を広く発信することで、自身の活動の成果を実感し、継続的なエコアクションの実施につながった。</p> 

■令和3年度かがやけ☆あいちサスティナ研究所

パートナー企業から提示された環境課題に対し、研究員である大学生が現場での調査や企業担当者とのディスカッションを実施し解決策を研究する。解決策を企業側に提案し、活動の成果を広くPRする。



学習者の変容

【学生へのアンケート結果より】

- ・他大学のチームメンバーやパートナー企業の方等普段であれば関わることはないような方々とお話する機会があり、多様な視点、意見を知ることができた。
- ・コロナ禍で1年半ほど一方通行のオンライン授業が続いた中、この研究所の活動を通してたくさん自分で考え、その考えたことをミーティングでメンバーなどに発信できたことは自分にとって成長できる貴重な機会となった。

【パートナー企業へのアンケート結果より】

- ・主体性、柔軟性、課題解決力、プレゼン力、達成意欲、素直さ、どれも素晴らしかった。

【教員・ファシリテーターへのアンケート結果より】

- ・人権の問題、雇用の問題、そういった業界が抱えている課題を企業が学生にきちんとご説明していただけだったことは学生たちにとって大きな刺激となり、真剣に考える機会になったかと思う。

成果と課題

【成果】

- ・企業から提示された課題の解決策を研究し、提案することで、知識やスキルを習得するだけでなく、活用する能力が育まれた。
- ・企業によっては提案された解決策を採用し、実施する見込みである。
- ・学生の柔軟な発想や考え方を取り入れることができ、本業とのシナジーにもなる。
- ・前回（令和2年度）の課題である「研究所活動が終了した後も、大学生とパートナー企業が継続的に関わり、環境面における活動ができるような仕組みの構築が望ましい」については、今回（令和3年度）、研究所活動が終了した後もファシリテーターが継続的にパートナー企業との接点を作っているチームもあり、改善できている。

【課題】

- ・学生がチーム内だけでなく他のチームのメンバーと交流する機会を増やすことで、様々な視点から課題を理解できるようにする必要がある。

事業の名称等

令和3年度環境学習コーディネート事業

ねらい

環境学習を受けたい方と、環境学習を提供できる方の橋渡しを行うことで、県民、事業者、NPO、行政、学校等の様々な主体が各々のノウハウ等を活かしあい、環境学習の幅を広げ、より効果的な環境学習ができるようにする。

学習者（依頼者）の状況

環境学習ってどうやってやるのか分からない。
講師は誰に頼めばいいのだろう。
どうやれば効果的な環境学習ができるのだろう。

成果指標

県民、事業者、NPO、行政、学校等の様々な主体が各々のノウハウ等を活かしあい、環境学習の幅を広げ、より効果的な環境学習につなげることができたか。

取組の内容

1 環境学習に関する相談・講師の依頼

（コーディネーターの）工夫

学校、行政、事業者など依頼者の主体に合わせて、あいち環境学習プラザに相談するメリットを紹介したチラシを作成し、web ページ等で周知。
過去のコーディネート事例を web ページに掲載。
あいち環境学習プラザの来所者（社会見学申込者等）へ、コーディネート事業の説明を実施。

共感・納得

学習者（依頼者・講師）の反応

（依頼者）
「web ページに掲載されている〇〇の講座を自分の学校でも実施してほしいので、講師を紹介してほしい。」
（講師）
「生き物の授業を行う訪問先の学校を紹介してほしい。」

学習の効果&主に育まれる力（取組の効果）

どのような講師を紹介してもらえるのか、どのような授業が作れるのか、何をしてもらえるのかがイメージしやすくなり、コーディネーターへの相談がしやすくなった。

2 依頼内容に応じ、講師や施設等を提案

依頼の目的や学習の目標、授業内容の希望等を詳細にヒアリングすることにより、ニーズに合った講師や施設等を複数提案。
コーディネート終了後も依頼者と講師が関係性を保てるよう、コーディネーターが同席して打合せを行うことで早期に信頼関係が構築できるよう配慮。

共感・納得

（依頼者の反応）
「授業の日程に合わせて、素早く良い講師を紹介してもらえたのでありがたかった」
「学習内容に合わせて講師の先生を紹介していただいた」

コーディネーターの持つ幅広いネットワークから学習内容に適した外部講師や活動場所を選定することができた。

3 学習日程や学校等の授業の目的に合わせたプログラム等の事前調整

依頼者と講師の双方と連絡を密にし、信頼関係を構築することで、講師が安心して授業に臨めるよう調整。
依頼者に対して、一過性の授業で終わらないように、事前・事後の学習の実施や、他の教科、総合学習との連携について提案。
講師が依頼者の求める内容をプログラムに取り入れることができるように、依頼者からヒアリングした内容を講師に伝えるとともに、より良い授業となるよう、伝えてほしい事や工夫する点も講師に助言。

見通しOK

（依頼者の反応）
「コーディネーターがフォローしてくれたおかげで、講師との打ち合わせがスムーズにできた」
「前年も利用したが、毎回内容が改良されていて素晴らしい」
（講師の反応）
「学校側が学習の狙いをはっきりと出してくれたのでプログラムをきめやすかった。」

事前・事後の学習の実施や他の教科との連携を図ることで、より効果的な環境学習とすることができた。
相談者の希望する学習内容と外部講師の持つプログラムの調整ができた。
事前に依頼者の希望を聞くことで、講師が安心して授業に臨むことができた。

4 講師を派遣し、環境学習を実施 ふり返り、改善提案の実施

コーディネーターが学習当日に立ち会い、講師と共にふり返りを行い、事後学習の提案やプログラム改善の提案を実施。事後学習として、どうしたら学習したことを生活の中で行動につなげられるのか、グループワーク等で話し合う時間を設けるなどの提案を実施。

♡ 驚き・感動

♡ 本物体験

♡ 成果実感

(依頼者の反応)
「自然体験をとおして生物多様性への理解を深める
ことができた」

(講師の反応)
「子供達の自然に関する情報が増えてきている、より
深い知識を提供できるようにしていきたい」

ふり返りにより、事後学習やプログラム改善の提案をすることで、より効果的な環境学習につなげることができた。



■令和3年度環境学習コーディネート事業

- ・あいち環境学習プラザに窓口を設け、環境学習の連携・協働に関する相談業務や連携・協働先の紹介・マッチング等のコーディネート業務を実施。



学習者の変容

- 【依頼者へのアンケート結果より】
- ・児童がこれまでに環境学習してきたことを再確認できた。
 - ・地球温暖化に危機意識を持ち始めることができた。
 - ・ごみ問題や生物多様性などに興味を広げることができた。
 - ・生き物と自然環境について、良い意識変化が見られた。

- 【講師へのアンケート結果より】
- ・初めて行う実験について、経験することができた。次回はより良い講座を実施できると思う。
 - ・児童の発想の広がりを感じ、自分自身も成長できた。

成果と課題

- 【成果】
- ・学校における環境学習の機会の増加に加え、環境学習講師等のノウハウの有効活用を図ることができ、環境学習の幅が広がった。
 - ・児童の意識が変わり、真剣に環境問題に取り組むなど効果的な学習につなげることができた。

- 【課題】
- ・より多くの方に本事業をご活用頂くため、あいち環境学習プラザを利用した事がない方に、本事業のPRを行い、認知向上を図っていく必要がある。